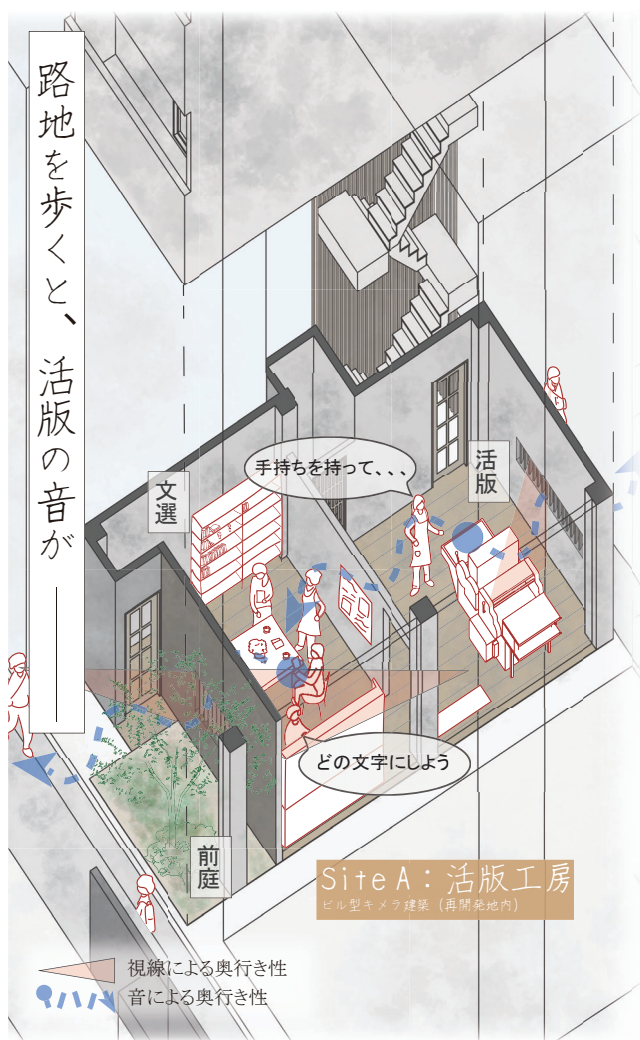


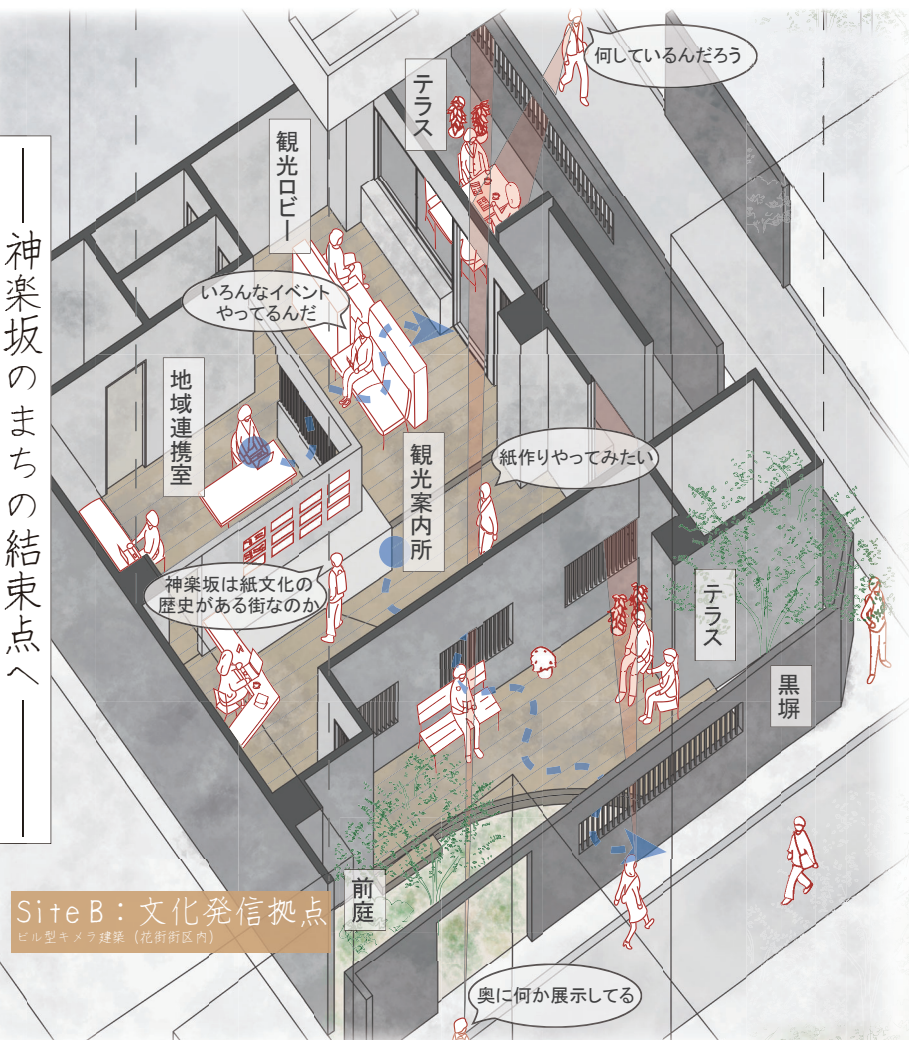
路地を歩くと、活版の音が――



Site A: 活版工房
ビル型キメラ建築 (再開発地内)

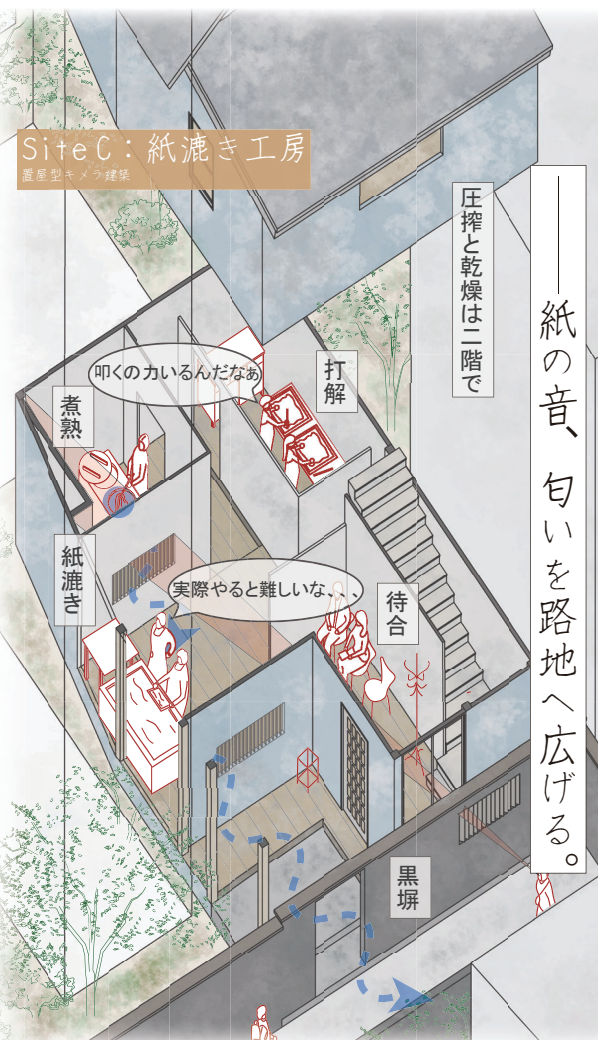
視線による奥行き性
音による奥行き性

――神楽坂のまちの結末点へ――



Site B: 文化発信拠点
ビル型キメラ建築 (花街街区内)

Site C: 紙漉き工房
葺屋型キメラ建築



紙の音、匂いを路地へ広げる。

圧搾と乾燥は二階で

打解

煮熱

紙漉き

待ち

黒塀

黒塀

テラス

紙作りやってみよう

テラス

観光ロビー

いろんなイベント
やってるんだ

地域連携室

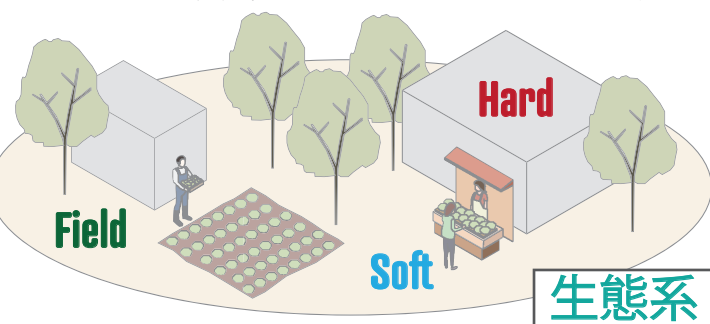
神楽坂は紙文化の
歴史がある街なのか

前庭

奥に何か展示してる

01. 生態系

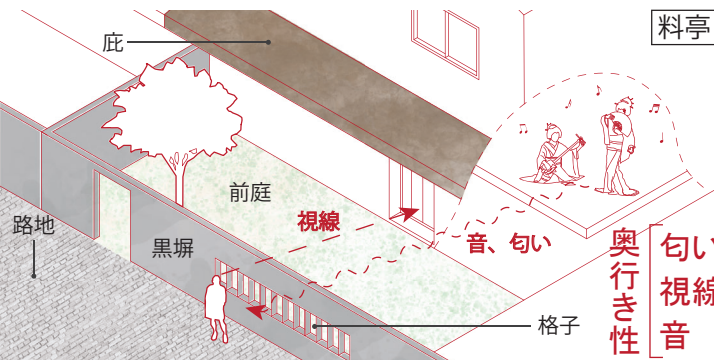
まちは土地や環境の「Field」、そこに建つ建築や家具の「Hard」、それらを用いて運営する「Soft」の3つから成り立ち、それぞれが互いを補い合うことで生態系は形成され、人々が関わり合うことで豊かさを獲得している。



定

02. 花街がある神楽坂

かつて花街として栄えていた神楽坂。神楽坂花街は狭小な路地空間に料亭からの三味線の音や料理の匂いが格子を通して感じられる「奥行き」という特徴を持っていた。



問

03-1. 衰退する花街文化

神楽坂の花街は大正時代から栄え、Field、Hard、Soft が揃い賑わいを見せていた。



Field

現在の花街

Soft

Hard 空洞化

衰退

Field

大正の花街

Soft

Hard

しかし、現在の神楽坂は花街文化 (Soft) が衰退、花街建築 (Hard) は空洞化により機能を失い、再開発による均質化・キメラ化が加速している。その結果、花街としての神楽坂は Field のみが残っている現状である。

03-2. 現状の神楽坂花街

□均質化する花街

花街のスケールが失われつつある。対象敷地である神楽坂三丁目は花街の建築や街割りが残るが、高層ビルの建設が進み、二面性が強く出ている場所である。



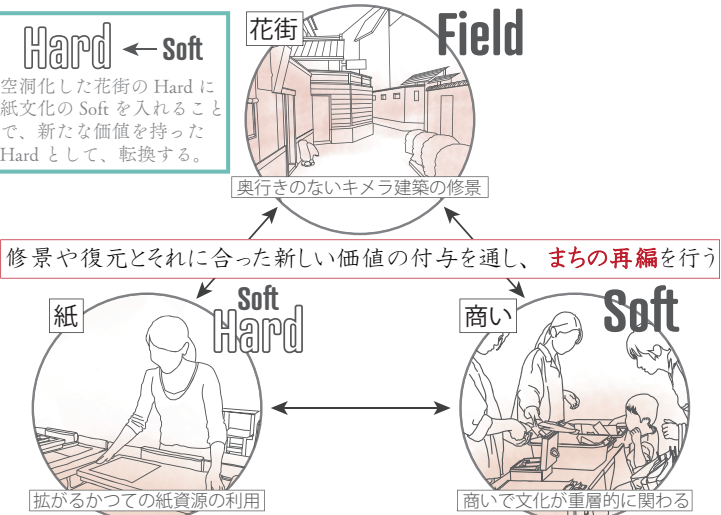
□花街の奥行き

神楽坂の街を歩くと、閉鎖的な黒塀や格子から三味線の音が聞こえ、料亭へと引き込まれる「奥行き」を感じる。



04. 神楽坂に生態系を構築

現在はSoft と Hard が衰退・空洞化、賑わっていたかつての花街のような「姿」を失っている。そこで、神楽坂に生態系を再構築し、新しい価値を付与しまちを再編する。

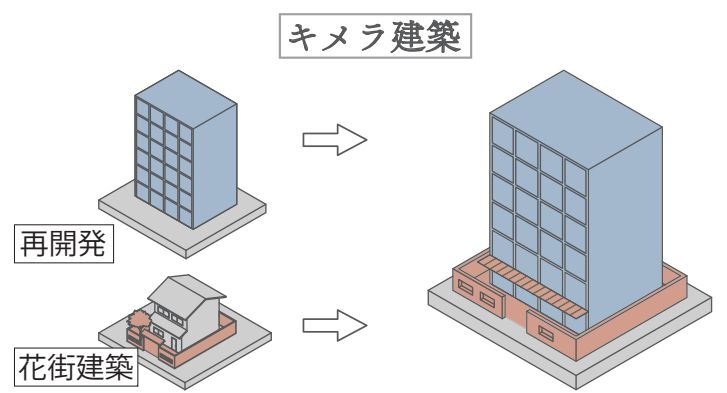


神楽坂と花街を繋ぐように紙文化が身体的に入り込み、商いによる人との関わりにより神楽坂の生態系を形成。

03-3. 神楽坂の裏と表の文化

□キメラ建築による花街の形態的模倣

景観保全のため建物に花街要素が付与されるが、本来の花街建築が持つ「奥行き」を失った形態的模倣となっている。



○神楽坂にあるキメラ建築



05. 花街と紙が根付くまちへ

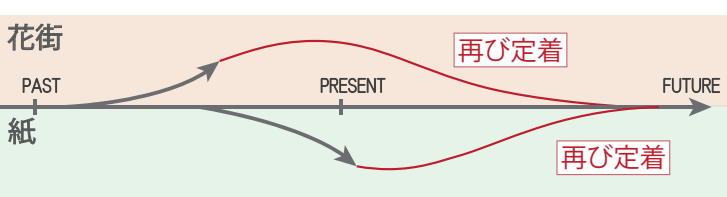
□花街と紙文化が重なる拠点づくり

本提案は神楽坂三丁目のキメラ建築を対象にリノベーションを行い、花街と紙の共通のシステムから機能を配置する。



塀や格子を用い、視線・音・匂いを体感することで花街建築の奥行き性を再付与、花街・紙文化が重なる拠点となる。

□再び社会に定着する花街文化・紙文化



社会との乖離によって離れていった文化を再び神楽坂に定着させ、新たな生態系として繋げる。

03-3. 神楽坂の裏と表の文化

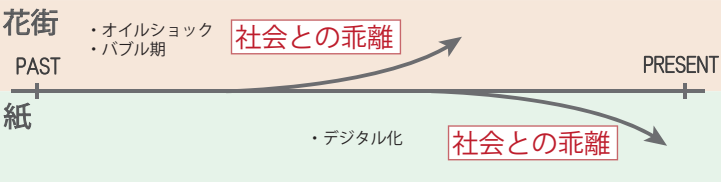
□花街と共に発展していた紙文化

神楽坂では裏の「花街文化」と神田川周辺発祥の表の「紙文化」が存在。紙文化は、文豪愛用の用紙や花街での千社札やポスターなど、出版／花街文化と広く支えていた。



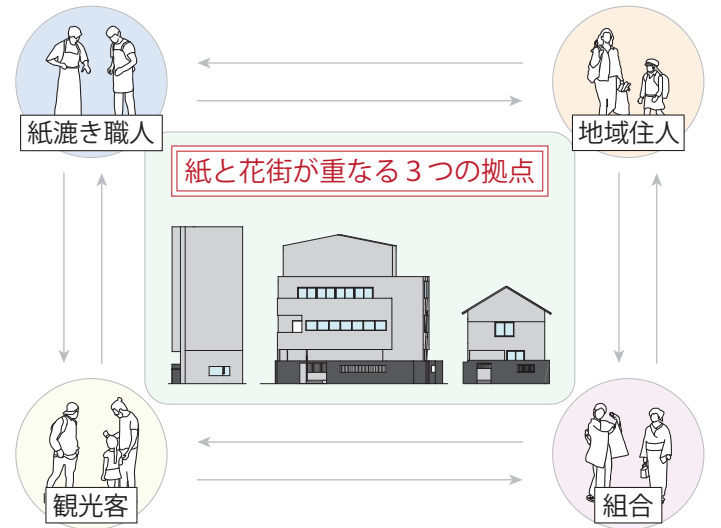
□神楽坂の文化と社会の関わり

神楽坂の表裏の文化は時代とともに社会との乖離が拡がり、現在では両文化が衰退、結果、Soft としての側面が失われている。そのため、神楽坂の花街文化はFieldとして、紙文化は文化体験のためとしてのみ残っている。



□人との関わりから神楽坂の文化が再び根付く

神楽坂に生態系を構築する上で、神楽坂組合と紙職人の連携を作り、地域住民・観光客が入り込むように計画を行う。



将来的に「花街文化」、「紙文化」が根付くことで神楽坂の生態系が形成され、まちのポテンシャルを高める。

